

様式 4

令和 4 年度 第 2 回学校運営協議会評価報告書

鳥取県立米子高等学校

学校長 山口 明美

評 価 日	令和 5 年 2 月 1 6 日 (木)
評 価 ・ 提 言	学校の所見・改善策
1 重点目標の達成状況について (1) 確かな学力の育成 ・新型コロナ対応や、1 年次生の BYAD もあり、ICT の活用が進んだ。 (2) 豊かな人間性の育成 ・生徒会執行部が主体的に、学校行事等に取り組むことができた。 (3) 自己実現のための進路指導の充実 ・進学、就職に関わらず進路未決定者が少ないことは評価できる。 (4) 地域連携による学校づくり ・出前キャリアガイダンスは、中学校長会でも話題となっている。小学校でも、将来の進路に早いうちから触れ合えることはとてもよい機会であるので継続していただきたい。 2 目標達成のための取組結果について ・挨拶、遅刻、制服等規範意識に欠けるところもみられる。 3 具体目標の達成状況について ・大学進学者 34 名（内国公立 3 名）と目標を上回った。医療系の進学が増えているのは現場としては喜ばしい。 ・自己肯定感が高いと回答した生徒が 9 割弱。 ・自転車ヘルメットの着用率は目標を大幅に下回っている。 4 目標達成のために取り組んだ具体方策について ・キャリアパスポートの課題を具体的に示してほしい。 5 その他 ・コロナ禍で時代が進化した中での学校運営を更に期待したい。	・ ICT 活用、観点別評価等引き続き研究を継続する。 ・生徒の自主的な取り組みを推進し、活性化を図っていく。 ・放課後、進路目標に向けた課外授業等の実施で進路意識を高めて実現に結びついた。キャリアパスポートの活用法には課題が残る。 ・今年度から中学校に加え、小学校でも実施した。生徒の意識も高まっている。次年度以降も継続して取り組みたい。 ・制服の検討が必要な時期と考える。生徒会が主体で新たな取り組みをしている。 ・進学者が増えたことについては、生徒がお互いに刺激しあえたことが結果に繋がったとも思われる。 ・校内での情報共有、外部機関との連絡を密に行い適切な対応ができた。 ・来年度より着用努力義務となることに向けて改めて指導を徹底したい。 ・学期ごとに記入するところまでで終わっている。進路につながる活用法について考えていきたい ・時代とともに、学校を取り巻く環境も変化している。あわせて対応していきたい。